

地球人 ちぎゅうじん

2005年9月5日 No.14

発行者：1年2組担任 木家勝之

- オルカをたずねて
- 地球とわたしたちのつながり

ご意見・ご感想をお聞かせ下さい

◆ オルカをたずねて

さあ、問題です！

「オルカ」という生き物を知っていますか？日本では、シャチと呼ばれています。…といえは、お分かりでしょうか。

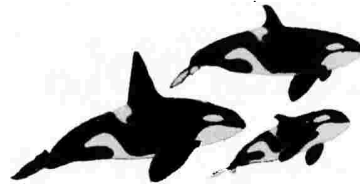
白黒もようの大型の魚？…

これが私の数ヶ月前の答えでした。シーワールドやJリーグのマスコットに使われている、それくらいしか知りませんでした。

今年の3月に申し込んだ「教員派遣プログラム」世界中の研究機関と協力し、野生動物の生態調査に協力をするプロジェクト。全国からの募集で14名ということで、私自身も宝くじの

つもりで書類を送ったのですが、参加承認の知らせが届いたので。その内容は、「オルカ」。アメリカ、ワシントン州、サン・ジュアン島の「オルカ研究所」で、オルカの生息環境の調査。11日間。…というもの。オルカとイルカの区別もつかない私はビックリ！ということ、私のオルカをたずねる旅が始まったのです。

ここで地球人マメ知識の時間
オルカって何？



● 和名「シャチ」（サカマタ）

意味は、魚を追い込み漁を助け海の幸をもたらす。日本の呼び名に比べ、海外では…

● 学名「オルキヌス・オルカ」

意味は、「冥府の魔物」なんです！

● 又は「キファーホエール」

こちらにいたっては、「殺し屋クジラ」です。

● 哺乳類（クジラ、イルカの仲間）

● 食物連鎖の頂点にたつ（天敵がない）

● 最強の捕食動物（鮭、ペンギン、海鳥、アザラシ、イルカ、クマ、クジラと何でも食べる）

● 複雑な社会と繊細な感覚を持つ

いろいろと調べいくうちに私もオルカの生態や、オルカにまつわるエピソード、人間との関わりなどを知るようになった。

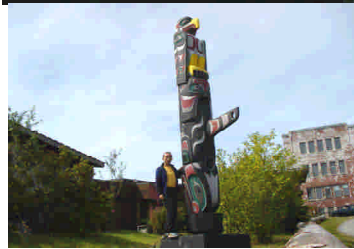
特にアメリカ北西部からカナダにかけてオルカとの歴史を多く学べる場所があるということで、研究が始まる数日前から、カナダのバンクーバー島の北部を訪れることにした。

ここには世界で始めてオルカのための生態系保護区が定められた場所であり、今でもオルカが定住する海域がある。また、近くの小島には先住民が古くからオルカと深いつながりがあった。

ジョンストン海峡と呼ばれ、大陸をはさんでたくさん的小島が位置する。この地に世界からオルカを研究する科学者が集まってくる。こうした科学者の努力により、オルカに対する誤解



や誤った先入観が正されてきた。また、アライトベイという小島では、オルカは神様のように敬われ、古くから人々と生活を共にしてきた。



先住民はオルカを壁画やトーテムポールの中に描いていた。あちこちで同じような物を見つけることができた。

バンクーバー島での「オルカをたずねる旅」から船を降り継ぎ、サン・ジュアン島へ。オルカ研究所での日々が始まってからは、連日、オルカの群れを観察していました。オルカは母親を中心とした家族で、子どもたちはポッドと呼ばれる家族で、一生を母親と共に過ごす。研究所周辺にも、たくさんポッド（家族）が訪れる。研究所での一日の作業は、早朝のオルカ観察。日中、船上でのオルカ観察。データ整理、オルカ識別作業…といった感じ。途中、船が壊れたり、一日中、オルカが現れないなどありました。ほぼ毎日、野生のオルカを見ることが出来ました。船の真横や真下を通ったり、急に水面から現れ、ブリーチ（ジャンプして体を水面にたたきつける）をしたりと、間近でオルカの雄大な姿を見ることができました。その姿はログ（記録帳）の手を止めてしまつてくらい、美しかったです。



◆オルカの旅を終えて

オルカの災難
氷河期の終わり頃から生き続けてと言われるオルカ。その歴史はここ100年で大きく変わった。各地に残る伝説が示すように太古のオルカは人々に敬われ、人はオルカと食料を分け合い、共存していくことができた。



ハイダ族の描く オルカ

しかし、時代が移り変わり人はオルカよりも早く進める動力源をもった「船」を作り海に出た。そこで人が目にした光景は

鮭を横取りし、クジラやイルカを襲い食い殺すオルカの姿だった。人々はオルカを恐れ、忌み嫌い、マシニングの標的にされるなど駆除される対象となった。

この定説に疑問を感じた科学者により、オルカの生態が徐々に明らかにされた。水族館のショーの花形として活躍するようになるオルカに対する人簿との考えは大きく変わった。



保護する対象へ

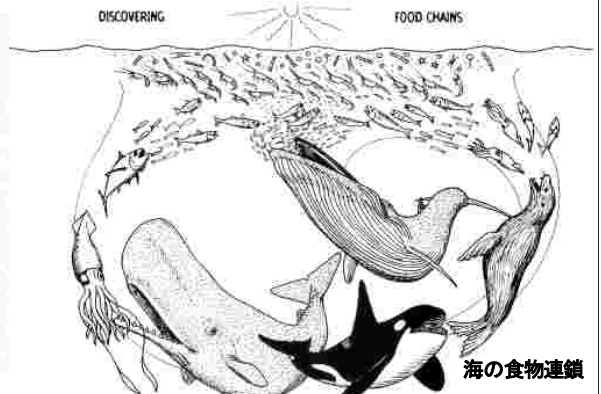
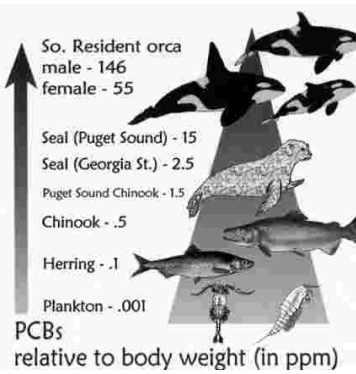
1970年代、ようやく本格的なオルカの調査が始まった。(私がボランティアをした「オルカ研究所」も、このころアメリカ政府の後押しで設立された施設だ。) 私たちが行っていた観察や調査が

明らかにしたことは「オルカに対する人間の影響」ということだったのです。

食物連鎖の頂点に立つオルカを調べることは、海洋汚染の影響、海洋資源の変化を知ることになります。

特にオルカの体内汚染の状況は深刻です。人類による環境汚染の影響で海に流れたすPCB、ダイオキシンは、フランクトンから始まるエサの連鎖でだんだんと毒素が濃縮され、オルカ体内のダイオキシンは、海水中の数千万から一億倍だと言われています。

その結果、近年オルカの体の変化として、ガンや奇形、免疫力や生殖機能の低下が報告されています。…ってこれって、最近ニュースで皆さんよく聞きませんか？そうです、我々人類が抱える環境問題による人体への影響は、同じように食物連鎖の頂点、天敵のいないオルカにも起こっているということです。そして、その原因は、人間にあるのです。オルカはうわさや誤った先入観でかなりの数が駆除されました。調査を開始してみ



海の食物連鎖

予想以上に少ないオルカの数に科学者も驚いたようです。この星からオルカを失うということは、海の食物連鎖のバランスを失うということです。そして、母なる海との接点を、人と自然との関わりを失うということではないのでしょうか。オルカは近年、多くの国で保護の対象となってきました。

◆地球と私たちのつながり

今、オルカは海を知るための大切なバロメーターです。オルカを介して、また、オルカと触れ合うことで人は海をより深く知るようになりました。オルカも人類同様、他の生き物に与える影響は多大なものなのです。

今まで未知の生物であったオルカ。この地球の未知のモノに触れ、理解を深めた時、人は改めて「つながりの深さ」を知る。人もオルカもすべてが地球の一部なのであり、すべてがつながっているということに改めて気づかされた旅だった。無関係な無意味なモノなど存在しない。未知の大自然に触れるということとは、地球と私たちの「つながり」を再発見することなのだと思います。

今回の地球人は、私の「独り言」で終わってしまいました。ぜひともみなさんにも考えていただきたいと思い、伝えることにしました。地球人として私たちが、今からでもできることを考えていきたいですね。



